読売歌壇

小池　光　選

ゆつくりと婆の押しゆくベビーカーまるまる太き竹の子を乗せ　村上市　鈴木　正芳

【評】ベビーカーで買い物を運ぶ高齢者をときどき見かける。きょうはまるまる太った竹の子一本のせた人を見た。生命力あふれる感じがして、励まされる思いであった。

「赤紙が来た」と寝たきりの父が言ふ俺が行くからと父を宥める　いわき市　佐川　義成

【評】寝たきりの父の妄想が悲しい。いまだに戦中の悪夢に捕らわれている。父さん、心配するな、赤紙が来たら代わりに俺が行くから。戦後八十年、こういう親子の会話もある。カフェ前の階段下にうつそうと決起集会のごとふきのたう　札幌市　三瓶　敦子

【評】階段下にいちめん蕗の薹。それを「決起集会」に見立てたところが新鮮で、あざやか。気が付けばどっと春の訪れが。

北陸の春を知らせる百足獅子若きらが舞う心ひとつに　香芝市　西津　英彦

わがかよふ理髪店主は愛犬家椅子のひとつに犬が寝そべる　小美玉市　松山　光

冬眠より目覚めし熊が里帰りするかのように町に出て来ぬ　北上市　佐々木清志

あちこちでもんどり打ちて樹の倒る老樹と言へど我より若し　四街道市　須崎　輝男

「行かないで」団地に響く幼児のこゑ朝は親子の別れの時間　さいたま市　春日　重信

食卓の白き椿に見ほれたか「家の椿か」と夫の問いくる　大阪市　大和田芳美

ギター長男カメラは次男吾はピアノ夫の形見を分け合う夕べ　さいたま市　大塚　数子

栗木　京子　選

千羽鶴のように房なす藤の花ひと吹きの風にどっと羽ばたく　宮崎市　長友　聖次

【評】咲き満ちた藤の花は、たしかに千羽鶴のように見える。吹く風に揺れる様子には迫力が感じられる。「千羽鶴」から始まって「羽ばたく」で終わる語の流れが美しい。

かをりては今を盛りの山藤を間近に見上ぐ峡のバス停　霧島市　内村としお

【評】藤棚の藤だけでなく、山藤にも独特の風情が漂う。まず香りで藤の存在に気付いた作者。見上げると紫色の花が目にとまった。峡のバス停の光景であるのが趣深い。

冬越しのりんごは疾うに底をつき畑にりんごの花あふれ咲く　横手市　佐藤　ミサ

【評】去年収穫したりんごは食べ尽したが、また新たにりんごの花が咲く日々となった。りんごを通して季節感が伝わる歌である。

Webでの事前登録できなくてあすの健診が遠くなりゆく　いわき市　ごとおとせ

土間の戸を少し開けて待つ祖母の居て忘れず燕来る在の家　川越市　中沖　稔

店先の小さなさつきの盆栽に誘われならぶ寿司屋のランチ　横浜市　杉本　恭子

父に書きし手紙はこよりに綴られて五十年過ぎしも書斎に残る　青森市　安田　渓子

高層のホテルの部屋から駅前の恐竜眺め古代人の気分　東京都　青山　繁

散る桜と開き始めた満天星の会話で始まる団地清掃　静岡市　簾田　淳美

病院の長き廊下を痛みなく歩けた日には母に会いたい　前橋市　清水　明子

俳　万智　選

あの日助けた鶴である可能性を捨てきれず自称息子を家へと上げる　東京都　留留留

【評】電話ではなく訪問式のオレオレ詐欺。息子でないことは一目瞭然なのに、どこか信じてやりたい気持ちがある。自分に折り合いをつける言い訳のような、上の句が切ない。

新しい着任先の土地の名が漢字変換されない四月　大和郡山市　大津　穂波

【評】土地との距離感を、漢字変換の反応で示したところがユニーク。しばらくすれば、自動で変換されるようになるだろう。その未来の時間をも含んで感じられるところがいい。

本当に暖かくなつたことを知るエアーポットの翌朝の湯に　北九州市　白木　典子

【評】電気を使わないエアーポットは、気温に微妙に左右される。昨日よりも冷めていない……暮らしの中の小さな気づきが、歌になる。

春が来て夫が残したアスパラが「笑ってるか」と声かけてくる　橋本市　諏訪　幹子

おそらくはだれかの肩で運ばれたひとひらを踏む春の教室　朝霞市　桐島　あお

子供等の影無き広き校庭にふるふるふるふるさくらはなふる　狭山市　奥薗　道昭

風じゃなく夜風と言った君だからこの寂しさも話してみたい　東京都　境　千尋

順番にカレーをライスにかける時給食係は少し得意気　広島市　宇井モナミ

今日ぼくはそのあたりまで行くだろう虹が見えたらメールをするよ　大和郡山市　四方　護

あちこちで起こる笑いを爆弾のように避けつつ帰った少女　高島市　宮園佳代美

黒瀬　珂瀾　選

お父さんと一緒やねえとスワイプに反応しないスマホに母は　大阪市　畑　依裕

【評】反応がにぶいスマホと、呼んでもなかなか返事をしないお父さん。どっちも困ったものだが、お母さんの言葉にはどこか余裕がある。やはり、長年の夫婦の仲ですね。

戦争中をキーウの桜は変らずに咲き続けたるか五年目の春　千曲市　米沢　光人

【評】ウクライナのキーウと京都は姉妹都市。その縁でキーウには「京都公園」があり、毎年桜が咲くという。戦禍だからこそ、国を越えた友情を、私たちは信じたいのです。

青空だけ見て暮らせよと母言いき雲雀の歌う今日の青空　松江市　三方　元

【評】いい言葉ですね。そして、その母の言葉を真っ直ぐ受け取り、長く記憶する作者の心も清々しい。雲雀の鳴き声が軽やかです。

フリースペースに隣る少女は眠りおりマーカーしるき世界史広げ　我孫子市　吉村たい子

ぽっくりと逝きたいという友増えるあと二十年は生かされる世に　大津市　松井　美枝

昨日より水の張られし田の畔に歩哨のごとく雉の立つ朝　佐倉市　松井　純子

食卓の醤油の味に「ただいま」と再起を誓う出所の夜に　山形市　水上　縁樹

十四の子はカフェへ行くときぽつぽつと言葉の増えるつつじ咲く道　熊谷市　茂出木智子

丁寧に話せば話すほどなぜか栃木と知れし新人のころ　小山市　多田木まさのり

下向きに咲く桜には意思があり棺の内側の光を思う　宝塚市　藤田　晋一

黄水仙覗き込みたる車椅子　東大和市　神山　文子

学童やたんぽぽ吹かずにはをれず　矢板市　鈴木　文代

看護師に桜蘂ふる夜勤明け　所沢市　荻野オサム

代掻きの農機一台ひとひとり　十和田市　佃　正子

問答を仕掛けたくなり紫木蓮　越谷市　安居院半樹

ふらここは老いの止まり木揺れもせで　木津川市　島野　秀子

新玉葱レシピ無用の丸かじり　周南市　原田　英夫

花筵重石代わりの一升瓶　土浦市　今泉　準一

プリンスとプリンセス数多薔薇競ふ　横浜市　大井みるく

二日目の草餅をゆつくり焦がす　大阪市　今井　文雄

行く春やスイッチバック二度三度　東京都　山口　照男

初燕けふは散髪日和なり　青梅市　増田　正

学校へ行けぬ子もゐて新学期　佐野市　桑原　博

よく笑ふ客の来てゐる春障子　佐野市　高橋すみ子

咲き満ちてきはまる花の静寂かな　東京都　杉中　元敏

二十円時給上がりぬ豆の花　東京都　大武美和子

春暑き養鶏場のにほひかな　三原市　天崎　千寿

猫の尻尾や春雨の温度計　塩尻市　神戸　千寛

石棺に残る馬の画春の草　神戸市　末永　拓男

陽炎の中へゆるりと車椅子　宇都宮市　大門とよ子

題字デザイン・イラスト　福田美蘭

◇投稿規定◇　はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名（ふりがな）、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌（俳）壇、○○先生（希望選者名）係または読売新聞オンラインから　◇毎週月曜日に掲載　右の影絵はみつばち